

## 熊本地震

### 復興支援 未来への教訓

GW三島と日本ステンレス



地震で壊れた屋根にブルーシートを掛ける日本ステンレス工業の職人たち。半年から1年は持つという＝4月、熊本県西原村(GW三島提供)

## 屋根のブルーシート掛け 行政不介入 直接交渉で

でも作業に当たった。

「初めて見る人に対し、民自ら雨漏りを防ぐことで警察、消防団、住民が屋根の修復作業に当たった結果、18人が落下し、1人は首の骨を折る重傷を負ったという。」

4月下旬、一行が熊本県出身のGW三島評議員の仲介で益城町の東隣に位置する西原村を訪れると、集落の入り口に警告文が張られていた。現地では地震に便乗して金庫やテレビ、冷蔵庫などが盗まれる被害があり、補修工事などを持ちかける

熊本地震の被災地で4月末から今月中旬にかけて、三島市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島と日本ステンレス工業(山梨県)

が復興支援のボランティアに取り組んだ。当初は窃盗被害などの多発で住民の警戒感が強かったが、壊れた屋根の雨漏り対策でブルーシート掛けの作業を続けたところ各市町から依頼が殺到。多くの被災者から話を聞く機会にも恵まれ、GW三島専務の渡辺豊博さん(65)は「地域コミュニティーの結びつき、共助精神の大切さをあらためて思い知った」。活動を通して被災地の「いま」と未来への教訓を探る。

悪質商法も増加。外から入ってくる人間への不信感は根強く、各家庭の前には自警団が腰を下ろしていた。

最初に向かった村内の大切畑(おおきりはた)地区は、16日未明の本震で28戸中25戸が全半壊と甚大な被害を受けた。住

りて各家庭で作業。「雨

渡辺さんは「屋根さえ直れば避難所から家に戻りたいという人が多い」と指摘。「大規模地震に備え、専門的な技術に対する補助制度を用意しておくことが必要と強く実感した」と語

りて各家庭で作業。「雨

りて各家庭で作業。「雨

りて各家庭で作業。「雨

りて各家庭で作業。「雨